

肘関節脱臼

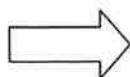
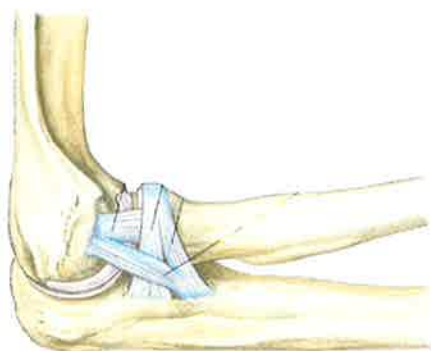
肘関節脱臼とは、肘を伸ばしたまま手をついたり、後方から強い衝撃を受けて肘関節が強制的に伸ばされた時に、肘関節の靭帯が損傷されて発生します。

- 発生頻度：成人では肩関節について多く、スポーツによるものがほとんどです。
- 脱臼方向：後方脱臼がほとんどで、全体の90%を占めます。
- 症状：発生と同時に激しい痛みがあり、肘関節は軽く曲がった状態で固定され自由に動かすことができなくなります。外見上、肘が後ろに飛び出たようになります。
- 治療法：まずは、脱臼した肘を整復し、元の位置に戻します。

その後、肘関節90度屈曲位で2週間前後ギプス固定を行います。

脱臼時に生じた靭帯の損傷具合によっては、肘関節の不安定性が残ることもあります。生活に支障がでたり、スポーツ時に不安感を覚えるようであれば、サポーターで保護する方法もあります。また、脱臼と同時に骨折が合併し整復が行えない時などは手術適応となります。

肘関節を横から見た図(正常)



肘関節を横から見たレントゲン写真(脱臼時)



肘が後ろに脱臼しています。

不明な点がございましたらスタッフまでお願いします。